

1事例目	2事例目
市民センターの「寄せ植え講習会」に参加したことがあるが、おひとりでは大変な作業が多く他の参加者も自分のことで手いっぱいだったので、補助をする人がいれば良いのに、と思った。少し手助けをすれば十分楽しめると思った。	
不登校児との関わりのアイデアはとても良いと感じた。大学生の中にも地域支援や交流を持ちたいと思っている学生は一定数いると思うので、学生との関わりがもてる機会があるといいと思う。若者もそのような会を通して社会や福祉に興味をもつことができると思う。	
(両事例?) 高齢者の方がそれぞれの特色を活かして活動できる場をつくる事はとても大事だと感じた。もっと多くの場をこれから作ることができれば周南市がもっと良い町になると思うので、みんなで考え続ける事が大事と思う。	
・小学校の通学路で子どもたちを見守ることで役割の持てる生活を送ることができる。協議体を通じてつなげてもらう。 ・自宅サロンをぜひ再開してほしい。県住で『一人暮らしの会』や「子どもを集めて何かの会(宿題を見る、歌の会、編み物の会など何でも)』など、チラシを貼るなどして自宅で開催する。 ・自宅で少人数の百歳体操を開催する(熊毛地区にはそういう方がいる)。 ・県住に集会所があれば「いつでもだれでも来ていいカフェ」のマスターになってもらう→認知症カフェにもなるのでは。	・1事例目の方みたいに何か人のためにしたいと思っている人を探して、傾聴ボランティアをしてもらう。 ・地域おこしに各地でやっているフォトコンテストに出展してみる ・外出支援は社協のボランティアにお願いしてみる。 ・興味があることを実行に移せたら、そちらに気が向くので、近所でおしゃべりする暇もなくなるかも。
・本人が参加できそうなボランティア活動が見つければ良いなと思った。 ・自宅内で行える体操や歩行数を記録する事で歩行や外出状況を改善し、ゴミ捨ての再開や地域のイベントに参加しやすい状況を作り上げる。	・さくらの写真の投稿…桜の木のあるDS, DCを利用し、写真を撮る→特養等、笑顔の写真コンテスト等あるので、それに応募する。 ・自宅訪問型のお話ボランティアの提案や、イベントや地域の集まりの際の写真を持参し、写真撮影や写真展出演への意識付けに繋げる。
両事例とも独居で、話をしたり聞いてもらう場が必要ではないかと思った。 自分の趣味を活かせる講座や話し合いの場所のサロン、通所リハビリの活用により、本人たちの思いを満たすことができるのではないかと思った。 地域によって活用できる資源も差があることも課題だと思った。	
・健診の受診等をきっかけに信頼できるかかりつけ医を持ち、骨粗しょう症の予防など医療面でのサポート体制も整えると良いのではないだろうか。 ・認知症サポーター養成講座などの機会があれば受講をお勧めしてはどうだろうか？本人の活動の幅が広がるのではないかと思う。	・安全に訓練が出来る場所として、通所系のサービス利用をお勧めしてはどうだろうか。
集合住宅に住まわれているとのことなので、集会所でサロンや百歳体操の日以外にも日常的にカフェのような形でみんなが集えるようなことができればいいと思った(軽い食事や読書、おしゃべり、編み物等いろいろなことを気軽に集まってできるイメージ)。	近所のよく話をされる方々に、傾聴のコツや話を切るポイントなど素人でもできそうな技が共有できれば、みんながストレスフリーで話しやすいのではないかと思った。
近所の公園や移動販売の集まる場所で、一人暮らしの方や虚弱な方などに声をかけお茶会を開催する。 散歩の時にゴミ拾いもしてみる。	

	移動サロンというアイデアが出ていたが、それを周知できることができれば、その場所に“お話ボランティア”や“傾聴ボランティア”の方をマッチングできるとよいと思った。社協のFBやインスタで可能な限りの情報をアップしてマッチングできると興味のあるフォロワーが気軽にボランティアできるかも。
移動販売車でお買物の際、近所の人と声を掛け合って、購入したお弁当やおやつと一緒に食べながらおしゃべりができる場所をご本人が提供する。週1回とか隔週とか開催日時を決めていれば予定が立ちやすいと思う。誰かと一緒に食事をするのは楽しいし、食も進みそう。	気持ちよく話を聞いて下さる傾聴ボランティアが良いと思う。またはシルバーサービスを利用して昼食と一緒に摂るというのはどうだろう。
自身の経験(サービスCを利用した自分の生活がどのように変化したかなど)を今後サービスCを利用される予定の方々に対して体験談を伝える場を提供できるような機会があれば良いかと考える。	目標を妨げているのが本人の歩行能力だけでなく意欲や消極的な気持ちだった場合には、それらを緩和させていく為にも、同じ目標を本人だけでなく多職種で共有し、みんなで本人を支えているという関わり方や言葉かけで応援していく方法も良いかと考える。
	市民センターの「子ども食堂」等のボランティア活動に誘ってみる。興味関心チェックシートで「孫、子供の世話をしてみたい」とあったので。ボランティアの方や子どもさん達とお話もできると思うので。
	文化活動に興味、意欲を持っておられる為、地域の教室活動に参加してみることができると良いと思う。
	・興味や関心事が多く、話好きな人という事で、お試しからでも良いので通所サービスを利用してみても良いかもしれない。 ・高齢者を対象にした展示会(写真や絵画等)が定期的にあれば、生活の中での意欲向上につながられるかも。
同じように圧迫骨折をされた方や同じ病気の同年代の方等、集う機会があると良い。	・地区に同じ趣味(写真)をもっている集まりがあると良い。 ・市広報に写真を掲載する機会があると良い。
集合住宅の共有スペースの花壇に花を植えて世話をされていたのも、人に喜んでもらえる活動がしたいという気持ちからであったのではと思う。同じ住宅に住んでいる方で、一緒に花の世話をしてくれる人をみつけて、体に無理なく環境美化活動に参加できればと考える。ちょっとした困りごとなどを、近隣住民同士で相談し合える機会にもなるのではないだろうか。	
(両事例?) ・現在、コロナにより休止しているいきいきサロンもあるため、5類に移行後、徐々に再開できるようなサポートがあると良いと思う(一旦休止すると再開するタイミングが難しいと思うため) ・通所系サービスや入所施設へ話を聞きに行くボランティアなど、窓口があると良いと思う(したい方が分かりやすい窓口)	
	写真や作った作品を市役所や図書館等に展示することで、見てもらっていることが実感でき、意欲が向上するのではないかと思います。
地域で「子ども食堂」のような「喫茶店」をつくり(集会所を利用したりして)、喫茶店で世話役をする。	・「写真クラブ」を立ち上げて、近所に会員で写真を撮りに行く。 ・他市の社協で以前、独居の方に電話をかけてくれるサービス(あんしんコール? おげんきコール?)があったが、見守り電話のようなものがあると良いかと思う。

- ・身近な活動としては、小学校登下校の見守り活動。
- ・児童クラブを訪問し、子どもと一緒に活動する(絵を描く、歌を歌う、紙芝居等)
- ・市民センターで講座を体験。

- ・市民センターの講座に参加し、興味のあることを体験する。
- ・社交性もあり、楽器演奏のサークルに参加してみる。
- ・多職種の方がつながっていることを伝え、精神面での安定を図る。

1事例目	2事例目
・(買い物が難しいので)東ソー生協のまちの送迎便(移動支援):送り迎えつきのサービスを使ってスーパーで買い物をする。 ・物忘れ進むと、総合事業でヘルパーを利用し、環境を整備。、定期H.V 安心につながる ・認サポやり図書館の展示イベントなどにグランドゴルフの人を誘う、ふれセンで啓発	・外にベクトル向けてあげたら。外に出て生活の空間を広げてほしい。 ・ケアハウスの入所者の中で同じ趣味の人などを見つける。ケアハウス内で出来る活動を探す。ケアハウスの協力は必須。 ・近くの小学校の図書館活動に参加する。
自己肯定感が低い方かもしれない→今できていることをしっかり評価、誉める。できていることを認める、気付いてもらう。 ・メモ書きを習慣化 ・グランドゴルフ(ルールが覚えられない)で本人ができる役割を与える(準備や片付け)→居場所づくり	・妹さん亡くなったあと…娘さんとの交流
・元々エネルギーが豊富な人。今はエネルギーが不足している状況かも。“やりたいこと”をして“やりたくないこと”はやらないことも大切。グランドゴルフは本当にやりたいこと？ 他人に誘われてやらされている感？ 本当にやりたいことをやる。やりたいことを見つける手伝い、やる支援。	・「この先どうなる？」不安。妹さんに頼れなくなる前に…次なる支援者につなげるアプローチ(元家族) ・離婚はしていない。奥さんは難しくて、娘と関われそうなら、妹さんが元気なうちにつなげる。
・誰かに調理する機会。こども食堂への協力(みんなの食堂:隔月の開催)役割につながる。 ・認知症は誰もがなりうるもの、という理解を広げる。RUN伴に参加(すすめられれば)。“認知症の世界”BOOKも活用。	・市民センター内の図書の活用。本の貸し借りができる(月1回)
・進行を緩やかにするための取組紹介 ・今の状態で十分できている、ということを書いてあげる。 ・グランドゴルフの人たちに認サポや見守りの役割で関わってもらう→チームオレンジに。カミングアウトできるように。	・小学校で読み聞かせ。地域の人の読み聞かせ歓迎なので、関われば。
シルバー人材センターの学童預かり(有償?) 小学校の放課後子ども教室を活用できると良い。 15:00~17:00遊び体験(ボランティア) グランドゴルフのルール難しく不適。本人に合ったものを提案しなおしてもらう。	・オンラインで囲碁のゲーム。パソコン×なので難しいかな? ・市民センターに囲碁クラブある。男性も参加されてるサロンや通いの場もある ・夕方(16時くらい)に不安定になる(うつ症状がひどくなる)ようなので、その時間帯にCMの訪問を。
	・デイで囲碁をやってみる。 ・サービスC→ケアハウスの人と一緒にいくことになりました!
・フラダンスをDSの中で取り入れる方法はないか。事業所に相談してみる。 ・本人のできる事で“ちょいボラ”を考えてみる(できる事で他者から認められる経験から自信を取り戻す) ・認知症の方が自分のできる事で地域活動に参加できるよう認サポと連携(放課後子ども教室に参加できるよう、子どもたち対象に認サポ養成講座を行うetc)	・ケアハウス内で囲碁ができる人を探す。いなければ携帯のゲームを使う。 ・ネットで囲碁の対戦をする。 ・ケアハウス側に、地域とのつながりを再開できる環境に戻れるように働きかける。 ・剣道4段を持っているということは、長く剣道をやっておられたということなので、それを活かせることができれば励みになると思った。近くの剣道の会に見学に行く、いずれ子どもの指導をする。 ・市民センターへ行っている移動図書館がケアハウスも回るルートを通ってもらえるとよいと思う。 ・ボランティアで囲碁に来てくれる人がいればいい。 ・外に出ることができるのであれば、基会所まで行くのに送迎をお願いできる移動支援があればいい。

・グランドゴルフ仲間にフレイル予防や検診の話と併せて、認知症についての話を（何気なく）する（市や包括が講話してみる）。 ・グランドゴルフやフラダンスのメンバーと一緒に認サポを開催する。 ・オレンジチームを作って、本人のやりたいを見つけていく。	・ケアハウス内で囲碁ができる人を探す。いなければ携帯のゲームを使う。 ・ネットで囲碁の対戦をする。 ・ケアハウス側に、地域とのつながりを再開できる環境に戻れるように働きかける。 ・剣道4段を持っているということは、長く剣道をやっておられたということなので、それを活かせることができれば励みになると思った。近くの剣道練成会（スポ少）に見学に行く、いずれ子どもの指導をする。 ・市民センターへ行っている移動図書館がケアハウスも回るルートを通ってもらえるとよいと思う。
様々なボランティア活動等がコロナの影響で今まで通りではないが、うつや認知症の方に寄り添えるようなお話ボランティア等あるといいなと思った。	
定期的に自宅へ訪問し見守りや相談相手に行えるサービス	
世の中がコロナになり、外での交流も減り、交流の場・機会が減ったことが鬱や認知症の進行を加速させているのではないかと感じる。コロナも終息に向かっていっているので、昔の交流を再開すると共に、新しく交流できる場があれば参加しやすくなるのかなと思う。地域の高齢化が進んでいるからこそ子どもなど若い世代と一緒に交流できる機会が増えれば活性化と見守りに繋がるのではないかなと思う。	
メモが出来ている事は褒めたり、夫が亡くなられたことには寄り添ったお声掛けを意識してみるのも良いのではと思った。現状ゲートボールへの参加が中々自主的でないため、他の活動をご検討されてみるのも一つの手段と思った。	（両事例） なかなか難しい状況で生活をされていると思ったが、身体機能は概ね良好の為、外出が出来る支援（送迎、付き添い等）があると活動が保たれて良いのではないかなと思った。
・地域の自治会館で、食生活改善推進員（ヘルスメイト）さんが地域の人向けに「保健栄養学級」を定期的に開催されている。ヘルスメイトさんは、生活習慣病を予防するための食生活の実践に向けて研修を受け学んだ知識や献立を地域の人に広める活動をしている。その場が「保健栄養学級」で、市民センターや地域の自治会館など身近な場所で開催されている。「料理教室に行ってみよう」という気持ちに伝えられる場のひとつになるのではと思った。 ・認知症の人が様々な場へ参画することを通じ、実際につながった・つながる地域の人向けに「認知症サポーター養成講座の開催」や「チームオレンジ活動」へ発展すると、より認知症の人が暮らしやすい地域になる。	・2度の自殺未遂をされているので、離れて暮らす家族など新たな支援者の確保と併せ、日常的な見守り・セーフティーネットがあるとよりよいと思った。市で、自殺を考えている人のサインに気付き・声掛け・気持ちを聞いて・必要な機関につなぎ・地域で見守る役割をもつ「ゲートキーパー（自殺の門番）」養成講座を開催しているため、そのような機会を周囲の人が活用し日常の見守り役になることもよいと思った。 ・現在の受診先は精神科？体形、口腔のブラッシング・食事の習慣についての情報、最近転居している生活歴から、身体的な健康状態の把握・身近なかかりつけ医をもつ目的で後期高齢者の健診を受けてみては？身体的な健康状態について知っておくと、生活改善の気付きにつながると思う。
	囲碁は打てないが興味はあるという方をケアハウス内で募り、本人が囲碁を教える。自らの力でケアハウス内に趣味仲間を作れば、気軽に囲碁を打てるようにもなり、日々の楽しみや達成感に繋がるのではと思った。
友人がいたり活動する場がある一方、さびしい気持ちがあったり不安感がある、そのギャップがどこから生まれるのか、本当の思いを確認できたらいいかなと思った。	
・あまり頑張り過ぎず、マイペースで良い事を伝えて寄り添うことが良いと思う。 ・グランドゴルフ仲間に対しては、皆さんに勉強して頂くのも良いが、ケアマネが一度参加してみて、認知症の方に対する接し方を見てもらうのも良いかなと思う。	
まだまだご主人との惜別が大きい方だろうと想像する。今はその気持ちを受けとめる方が必要で、あれをしたらこれをしたらはそれからではないかなと思う。エネルギーが枯渇しているから。ピアカウンセリングがあればいいと思った。ご自分が好きな事だけをする必要があり、人に合わせてやることは今は楽しくないと思う。「がんばれ」の応援も負担だと思う。「できること」を喜んでくれる伴走者がいればいいと思う。親友がおられたらその方にも伴走してもらおう。Sさんのような方ももちろんだが。	

(両事例) 昼食づくりが出来るデイサービスがあったら良いのでは。	囲碁のDVDをケアハウスの食堂で流す。意外と囲碁に興味がある人がいて、一緒に観てくれるかも。
・夫を亡くして数カ月の本人が、その悲しみや、夫や家族との思い出や、自分のことなどを、ただ聞いているという時間をとれる場所や人がいるといいなと思う。(防府には「田舎の保健室」というところがあるが、そんな場所が周南市にもあるといいなと思う) ・グリーフケアの重要性を感じる。	
認知症の症例で、いろいろな意見を聞いてみて、今まで趣味で行っていた書道や華道ができる人と集会所等で行えるといいと思った。	

1事例目	2事例目
カゴ編み、デイの近くで展示会(郵便局など)→学校(児童クラブ)などへ寄付。	太極拳に通いたいとのことだが、息切れ、動悸、浮腫はないか？心房細動、体重増加も…。なければ、心不全の予防に太極拳はOK。 地域の活動で読み書きがあると不安になりがち。気をつけながら活動が続ける。
新聞紙でバッグを作っている。なくなれば補充している。手に取り持ち帰ってもらう場、必要とされていると思うと意欲・やる気につながる。DSでの活用とか、活動の場を検討してみている。	人との交流は案外あるが、今よりも寂しさを感じているのは読み書きができない劣等感からではないか？ 訪問リハのSTに文字の読み書きを教えてください。 ヘルプマークをつけてみる(申請基準は不明)
飲み薬の管理。飲み間違いがあるなら一包化。アマリール:遅れて飲んだ時は必ず食事をする(低血糖予防)など指導を。	火曜10:00～サロン(1回100円、イベントにはクリスマスビンゴ大会など有) 住民が集まっているのでは是非参加してみても？
ひ孫に協力してもらい、SNSを活用してカゴの投稿する。 家族に友人のところへ連れ出してもらおう。送迎。 →家族に小言を言わなくて済むように、外に目を向けられるようお手伝いする。	足のトレーニング。自分で通えたり移動できる能力をつけて、自分で買い物したり交流の場に行ってみるのは？
カゴを売ることも意識。「お金になる」という経験。孫やひ孫に手伝ってもらってメルカリなどに出品(アプリ活用)。	ケアマネの存在が本人の拠り所なので、これからも関わりを！ オーラルフレイルのリスク心配。誤嚥性肺炎の予防のため口腔体操。 うつ症状(気分の浮き沈み)に注意、見守りを。がんばりすぎてストレスにならないよう支援する。
近くの自治会館のサロンにカゴを持っていく。カゴ作り教えてあげる機会(現在サロンの活動なし)。 こども食堂が活発なのでカゴを献上して活用してもらおう。	ピカルタミド80mg…前立腺がんの薬。処方については確認を。
施設や入所の方にカゴ編みの作り方を教えながら一緒につくる。 プリマやマルシェに出品、施設のイベント等で売る機会提供。	民生委員とのつながりを切り口に地域の方へ参加を検討してみる。交流を広げてみる。(交流範囲の拡大が負担にならないければ良いが)
小学校での交流会へ参加して、子どもたちと一緒に作品作りや昔話等、聞かせてあげる。 百歳体操へ参加し、筋力運動につなげる。 書道、習字教室への参加。不可能であれば通信に挑戦してみる。 プランターを購入して、簡単な野菜を作り楽しむ。	心房細動等をベースにした心不全。 太極拳に通いたいとのことだが、普段の生活から息切れ、浮腫はないか？なければ、心不全の予防に太極拳は良い運動。 体重増加＝心不全増悪の可能性。体重増加や浮腫がないことなどは普段より確認。
	今出来ていることは立派な事だと評価してあげる事も大切。 多人数での交流ではなく少人数での信頼できる友人を見つけてあげる。 散歩で自宅周辺の視野を広げて近所の方との交流の機会を増やす。 家族支援は可能なので、週1回買い物の後、一品でも一緒に料理を作り、一緒に食事時間を楽しむ。 地域活動に興味があることから、体調に合わせ無理のない程度の清掃活動に参加してみる。 DS以外の曜日にコーディネーターとの電話での交流。

小さなフリーマーケットスペースの共同利用などでできれば。 公民館など、地域で近い場所で行える売買場所の確保。	うつ病の方であれば、集団の中で行える作業などをデイサービスにて行った方が友人もでき気晴らしになるのではないかな。
屋外での歩行に対するニーズもあったので、デイケアでの運動提供もありかなと思った。(興味関心チェックシート以外に)満足度や遂行度なども聴取しても良いかなと思った。	うつ病の方は頑張りすぎる傾向にある(「頑張りましょう」などの声かけは禁句なくらい)。集団で取り組めて、単純な工程かつ反復できるような作業の提案は理想とされているので、検討してみても良いかも。精神面の安定を図った後に少しずつ難易度を上げるといいと思う。
ケアマネの訪問の時に話をしたこと聞いてくれたことを、嬉しそうに話される利用者が多い。民生委員やサロンの友達とは違う特別な相談相手であるケアマネの存在は大きいと思う。1対1で話ができるケアマネとの時間を大切にしてほしいと思った。	
高齢者の手作り作品を代わりに出品してくれるような家族、ボランティア。フリマサイトや道の駅などで商品として売れば、生きがいににつながるのでは。	自律神経の乱れが痛みにも大きく影響してくると思うので、本人もしてみたいと思っている温泉に、定期的に連れて行ってもらえるようなサービスがあれば。現在入浴が週2〜3回なので、増やせると良い。血流がよくなって痛みの緩和につながるのではないかな。 オーラルフレイルリスクがあるため、口腔体操を生活に取り入れられるとよい(市内の地区によっては通いの場での口腔体操を実施している)。できれば歯科のかかりつけが持てると良い。
フリーマーケットに出品してみる。	いとこ(海外)と連絡のつきやすい時間帯で連絡を取り、コミュニケーションが取れる人を得る。
(広さにもよるが)自宅の離れで友人等と一緒にカゴ編み教室のような形で作って、交流する。	・向上心のある方ということで、本人に抵抗がなければ、今からでも読み書きの練習をしてみる(小学生のドリル、通信講座など) ・今やっている楽しいことに目を向け、裁縫のボランティアはとても価値のある事ということを伝える。ケアマネや民生委員など活動を知っている人にほめてもらう。 ・民生委員の犬の散歩と一緒に散歩する。 ・ヘルプマークについて、本人が見せる事に抵抗があれば、一人で外出するときや窓口で手続きが必要になりそうな時など、自分が困った時や手助けが必要になったときだけ提示する形で使っても良いと思った。
夫が他界後、女手一つでがんばってきたと思うので、家族みんなでそこは尊重してあげてほしい。内服管理できるならほぼクリアに近い。小言は学び事ととらえ、阻害しないでほしい。できた作品はメルカリやヤフオクで出品し、喜びにつなげてあげたい。また、“96歳の日常…”とTiktok等で共有し、つながりを作るのもいいと思う。DS等では、講座としてカゴ作り教室はいかがだろうか。	タブレットを活用し、筆談、筆記の練習。Siriやアレクサ等で、寂しい時は話し相手に…。前向きであるからこそ、ムリをせず、一步一步、交流を続けながら、今の自分を認めてあげることが大事なのかな、と思う。
通所介護で他利用者にカゴ編みを教える機会を作ってもらう。	「お参り・宗教活動をしてみたい」とのことなので、写経をすすめては…。
・作ったカゴはJAや道の駅での販売 ・孫の力を借りてメルカリに出品 ・デイサービスで作り方を教えて一緒に作成する。	青空公園で太極拳をやっているので、参加してみる。
・フリーマーケットで高齢者の手作り品を販売する業者があるといい。 ・お寺が檀家を集めてイベント ・子ども食堂にカゴを提供し、その子どもに手紙を書いてもらう。	サスケをつけて相談する。

メルカリやインターネット、SNSの活用は新鮮。 ・フリーマーケット等の利用支援があればより良いのでは。	
・支所や自治会館などの施設に「ご自由にお取りください」と手作りのカゴを置いてみる。可能であれば。 ・公的な場所やデイサービス、本人が受診している病院の受付口に手作りカゴを置かせてもらい、カゴを取った人には一言簡単なアンケートを書いてもらうと、本人がそのアンケートを見る事で人の役に立っているという気持ちを持ち、意欲の向上につながっていくと思う。	・独居の人に対し、民生委員、福祉員、コーディネーターやサービス事業所などいろいろな人が関わっているので、この方に関わる時間をみんなが少しずつ持つようにすることで、『見守ってもらっている』安心感を得てもらえるのではないかな。 ・独居であり何かあった時に、頼れる人が近くにいない不安感を少しでも解消できるように、「いきかたノート」を活用してみてはどうか。 ・今から挑戦されること(太極拳)を応援していくことで十分だと感じた。 ・公民館活動で太極拳をしているところがあるので行ってみる。
民生委員⇄CMへの情報共有や「こんなことやってます！」みたいな地域情報をもっと出来るといいなと思った。 物の売り買いや交換等、福祉施設や学校等のバザーなども活用できたらいいのではないかな？ 通いの場をもっと地域の人が参加しやすく声かけや紹介があればいいなと思った。	
現在利用されているデイの利用の中で、できる範囲で自分の希望されていることが何らかの形で実現できると良いのではと思った。もし他のデイの事業所で本人の希望にあうところがあれば替わるという選択肢もあるのかもと思った。	興味関心チェックシートで「旅行をしてみたい」となっているので、旅行会社の人に相談して無理なく行けるようなプランを立ててもらい、長期の目標に向けてできることや必要なことを少しずつ行っていけるとよいのではと思った。
	サスケを設置すると相談ボタンで夕方は話をきいてくれるかも…。不安な時に話をきいてくれる安心なツールになるかもです。
カゴ販売のシステム。 地域や学校のバザー等出展案内～手配まで。 地域の文化祭があればそこで見てもらう。 コミュニティーセンターのサークルがあればカゴ作り教室を行う。	傾聴ボランティア
子ども食堂や、一人暮らしのお年寄りを支援する動きはあるが、多世代同居の家族は支援していないというか、支援できない現状。サロンの充実や誰でも集えるカフェがあったら良いと思う。	

1事例目	2事例目
・食生活:たんぱく質をとれたら。長男にも協力してもらう。 ・運動:記録の習慣があるので、その記録の表に運動の項目を追加してみる。数字で確認できるように。まめな方なので、そこをうまくできたら。 ・携帯の運動機能を使って目安を作って運動してみる。	・転倒リスク軽減の為、家で過ごせる環境を整える→見えなくなっても移動等できるよう事前に練習する。 ・輪郭は見える→段差の境目にコントラストをつけてリスク軽減。
・市民センターの食堂にさそってみる。 ・地域食堂に参加し交流を図る。 ・地域の方からの声掛けがあればつながってくるのではないかな。	・生活リハビリとしてOTにアドバイスを受けて住環境みてもらう。 ・意欲の面:点字を覚える→意欲向上 ・社協で音声図書を借りる等、生活の楽しみを見つけて増やせば、意欲向上につながるのでは。
・薬を減らしてみる？ ・病院好きで薬も自己管理できている。今度難しいようであれば薬剤師が介入することが出来る。 ・「息子に迷惑かけたくない」「健康に過ごしたい」との思いがある。温厚で几帳面な性格の様子。やると決めたらやる方→自分のための料理ではなく、息子さんの好きな料理を作りますか？と提案してみる。	・視覚以外の他の五覚を楽しむ→他の料理、コーヒーetc
・義歯の管理、歯科受診	・飲み間違えて落ち込む前に、飲みづらくなったら薬剤師に相談する。 ・現在は病院ごとに一包化→すべての薬を一包化してもらう ・凸凹のシールを貼ってもらうなど、薬の判別ができるよう工夫 ・目薬:色の判別が出来なければ、容器の形を工夫。メーカーによって形に特徴有り！
・薬を減らす。薬が多いので調整(見直し)してみてもどうか。	・自分で買って食べることは出来ているので、今後も続けてほしい。その為に歯科受診し、義歯をあうものに変えて、食べる楽しみを！
・おひとりさまが好きな方、楽しめる、幸せを感じる方。→愛犬、長男との活動が社会的活動。現状ですすでに楽しんでる…?! 愛犬との生活、息子との生活が幸せなのではないか。 ・したい事はもうやりつくしたからない→投げやりではなく、やりきった！という満足。今が本人にとって幸せ。	・カラオケに興味があるようなので、可能なら出掛けてほしい。一応、近所にカラオケボックス有。徳山駅付近のはカラオケお友だち募集のチラシも見たことがある。
・奥さんとの関係性が良好で楽しかった思いがあり、本人の中にはやりつくした感がある為、本人の気持ち地域に向いてないのではないかな。	今どれくらい楽しい生活をしていますか？ 今どれくらい幸せな生活をしていますか？ 病気になっても、目が悪くなっても→チャレンジしている。好きなことをしている！今も！！
	・運動の場としては基幹型の集いの場があるので参加されてはどうか(月～金)
愛犬と散歩に行く	点字を覚える。 ヘルパーを利用して食事を作ってもらう。香りのある物を楽しむ。
・長男や愛犬を大切にしておられるので、長男や愛犬のために何かする。 ・他者との関わりはあまり望んでいないと記載されているが、デイケア週2回は休まず利用されているので、本人にとって居心地の良い場所になっているのではないだろうか。	・精神障害者の集まりへの参加だけでなく、視覚障害者の集まりに参加してみる。 ・ラジオを日頃聞いているそうだから、リスナー投稿してみる。

愛情深い方なので、自分のためというよりは長男や愛犬が喜ぶためにしたいこと、できることを視点にアイデアを出すのも良いと思う。	
	興味関心チェックシートの「歌を歌う・カラオケ」をしてみたいに○がついているので、他の方が提案されていたカラオケボックス以外に、市民センター等で実施している声楽クラブ等も良いかなと思った。また、家でカラオケができるゲーム(遊び道具)・アプリ等を活用して、自宅や本人の行きやすい場所に友人と集まって歌を歌うのも良いかなと思った。
愛犬を大切にしておられることから、ドッグヨガのように自宅で愛犬と一緒に楽しめる運動を日々の生活に取り入れてみてはどうだろうか。	
・犬好きが集まるペット交流会への参加 ・公民館などで造船技術を活かしたミニチュア船づくり講座などの講師役(役割)	・視覚障害者の方の交流サービス、外出支援サービス
・無理に関わりを増やそうとするのではなく、愛犬や息子との関わりを増やす→例えば、愛犬の記録を残す。パソコンが得意とのことでSNSやブログ等で発信してみる。息子と食事を一緒に囲めるよう時間を調整する。 他の方の意見で、意欲低下で自分からの発信や関わりが難しい場合、地域の人や周りの人から声掛けをしたり関わりを持つアプローチをするという提案になるほどと思った。	・網膜色素変性症と診断されほぼ見えなくなり、今は光や輪郭がわかる程度であるという状況…高齢者になってからの視覚障害で不安や苦痛が大きいのではないかなと思う。症状が進みますますの視力低下も懸念されるので、同行援護の申請が通ることを望む。
	この地域はカラオケ喫茶が何店舗もあり皆がそこで練習を重ねてカラオケ喫茶主催の音楽祭や地域のイベントに参加されている。自分が担当している要支援1の方も週1回一人で歩いてカラオケ喫茶に行き、発表会に出られていた。同年代の方が多く、発表会への参加を目標にするのも楽しみになると思う。
・自宅内で行える運動や体操の提案 ・手すり等の設置アドバイス ・リハ職同行訪問の提案	・同行援護でカラオケに行く(歌詞を耳元でささやいてもらう) ・視覚障害者の卓球に参加する。
・配食サービスについて、バリエーションが増えることより楽しみが増えると思う。可能であれば前日または前の週にいくつかのメニューから選択できると良いかなと思う。 ・個人がやってみたい事、人をマッチングできるようなシステムや資源があれば良いと思う。 ・初めての場所、店に行くというのはハードルが高くなるというか、自分に置きかえても少し身構えてします。今回の会議で挙げた同行援護や地域の方の援助をうまく利用していけると良いかなと思う。	
・子犬に一芸を覚えさせるのを目標に(楽しみに)して生活する。	・体操に行く。 ・散歩や買い物と一緒にしてもらえるボランティアを探す。 ・文字(メール)が書けるなら、ラジオに投稿して楽しむ。視覚障害者のための投稿方法があるよう(音声入力アプリなど)。
・ドッグカフェのような犬好きが集まれる居場所づくり ・家事を担う男性が話せる場所づくり ・商業施設で百歳体操 生き切った人生のようなので、望むこともないようなら、困ったときに声をかけてもらうように適度な距離感で関わる。	・同行援護ができる事業所の拡大。受診時は待ち時間を抜いてヘルパー事業所は時間のカウントをしているが、それでは事業所側の時間拘束が長く、同行援護を行う事業所が減ってしまうため、待ち時間も必要時間としてカウントできるような制度整備が必要だと思う。 ・ボランティアによるお出かけ支援 ・視覚障害者の集いがあるといい。
栄養に関する課題が挙がり、自分自身がサービスや支援の方法の知識の薄さを感じた。対象者の興味を持てただけのような情報や地域の食事会等の情報がより周知しやすい環境になれば良いと思った。また、何らかの行動(今回の事例では買い物に行った際や通所・外出時など)をきっかけに改善したいという意欲を引き出せるような支援や情報の提示ができるようにしたいと思った。	

1事例目	2事例目
リハビリの必要性(←キーワード) 今の自宅で生活が本人にとって心地良いものになっている。 かかりつけ医に行って、帰りにスーパーに寄っておやつを買う(目標)のために、運動の必要性を伝える。	畑仕事をいかに楽に楽しくするか！ キャスターのついた椅子で草取り。畑にパラソルを立てて休憩。 (若い人がいたら)SNSで配信、同じ趣味の人と繋がる。
山登りについて夫婦で思い出話。 孫や子どもに山の紹介をすることで、話すきっかけや他の山の歴史・地理などの興味をもってもらおう。 YouTubeで登っている人の動画を見る。 山登りのスティックを家で使って動く。リハビリの代わりの運動。	集会所での集まり、通いの場やサロンを提案。
孫と一緒に外に出る。きっかけとして孫と関わる。	腰痛→整形受診。薬など痛みとうまくつきあえるように。 散歩→シルバーカーなど利用するのも◎。
興味関心チェックシートで「旅行・温泉」に○がある。家族に協力してもらい、旅行を目標にがんばる！ サロン等に講師として行く。	湿布、塗り薬やりにくい→補助具やマゴの手にサランラップして使ってみる。
今後再び薬を拒否したら薬剤師へつなぐ！ いずれ自分で薬管理できるようにできたら妻の負担軽減にも…	長男夫婦→週末だけでも一緒に畑。 近隣の方と同じ時間帯で畑をする→つながり 長男夫婦に助けてもらいたい <u>具体的な内容</u> を挙げて、できるものを手伝ってもらおう。
散歩に誘う。 地域の行事に出る等リハビリに代わる運動を地域資源を活用してやってみる。	ケアマネがみんなを集めて、長男夫婦と話す機会をつくる。家族同士のみではもう難しい段階…。
本人のやる気を出せるような、興味のあること、趣味に特化して、リハビリへの意欲を促す。	家族間で頼みづらさがあるのであれば、第三者を仲介役として取り入れてみる。
予後をしっかりと伝え、リハビリをしない事のデメリットを考えて頂く。	ケアマネが間に入り、手助けの入り口を作ってあげてはどうだろうか。
現在の生活スタイルを今後も継続することでの今後の影響、リハビリすることによる影響などを話して、本人がどのような生活を選択するかを選んでもらう必要がある。必要と感じない限りなかなか気持ちの変化を促すことは難しいと思う。 リハビリテーションという言葉に対してナーバスになっている方もおられる為、現在の生活にてより希望や目標を満たせるきっかけをどのように声掛けを行うかが非常に重要と感じた。	定期的に可能な範囲にて家族とCMが本人について話し合う場を設けることが必要と思う。身体機能や生活能力も変化する事を伝えることも重要と思う。
本人の生活スタイルを変更させることは容易ではないが、今の状態や今後のことも考慮して現在の状態からリハビリ実施することとしないことでの予後話すアプローチも必要な場合もある。	家族関係についてアプローチが必要な場合は非常に難渋すると思う。しかし、高齢になるにつれて現在の状況や今後について話し合いの場を持つことで多くのことが伝えられていると思った。

	高齢者が栽培した野菜類を販売できる場所を作る。
自宅(眺めのいい自宅)に塾や寺子屋のような集まるところを作り子どもからお年寄りまで集める。孫のついで。パソコン教室。	野菜が無理なら、花期の長い手のかからない花の苗を植えてみる。
・本人が今の生活に満足しているのか、自分の現状をよく分かっていないのか、確認した方がよいと思った。 ・変更申請をした方が良い状態であれば、早く申請していただけたら本人のためにもなるかと思った。	・アマゾンに興味があるとのことなので、YouTubeやDVDなどを活用してみる。同じ趣味を持つ人がいれば(興味がある人でも)鑑賞会をする。 ・姪と行けたら、他の家族も誘って皆の思い出にする。行けなくても、写真や地図等で家族や友人と思い出を分かち合う。
	隣に長男夫婦が住んでいるが、長男は家の手伝いなどあまり出来ないだろうし、本人も嫁に手伝ってもらうのは遠慮もあるだろうし、出来る事は自分でやろうとしていると思う。だんだん年を重ねて出来る事が少なくなる事に対して不安は募るだろう。もっと出来なくなる事を考えると少しずつ他人(嫁)にも頼めるようになった方がよいと思う。周りもそれを察してあげてほしい。畑仕事もだんだん出来なくて当たり前と頼り切ってほしい。今までよく夫の介護や家事をよく頑張ってこられたのだから、今度は自分を労わってあげてほしい。
運転が可能であれば、自費でシルバーカーを購入し、散歩をして屋外の様子を見るだけでも刺激になり、意欲向上につながられないだろうか。	・敬老の日には家族でお祝いをしてプレゼントをするなどして、楽しい時間を過ごしてほしい。 ・自宅で野菜を作っている人は多いと思うので、協議体に相談して『無人販売所』を作って、売れることで活動意欲は高くなっていく可能性がある。生きがい創出の仕組みを作ることができればいいと思う。
・読書の会:読書の感想などを表出できる場 ・移動図書館、移動販売車:近くまで来てもらい、そこまで歩いて自分で本やおやつを選ぶ	・野菜づくりの会:同じ趣味を持つ仲間と情報交換をしたり物々交換をしたりできる場 ・移動支援:乗り合いで買い物など、交流の機会を兼ねて
サロン等、他者が集まる場での脳トレの講演や本人が作成した冊子のコピー本の配布	長男の妻からのアプローチ(夕食のみの持参)※関係性の修復ときっかけ作り

1事例目	2事例目
「計画立てて行動」難しい状況、現在の身体の状況。 現状の自宅サロンなど、十分がんばっている。いかに継続するかを視点に支援で良いのでは。	BMIが気になる→運動や体重管理、減量の提案。サービスを利用して運動してみる。どこまでご本人の意欲・理解・納得によるが…。 減量ふまえた運動メニュー。 負荷が少ない運動◎
満足得るの難しい性格。気質か。『満足しなかったけど、ちょっと楽しかったかな』の積み重ねが達成感になるのでは。CMも前向きに関わりがあり、少し満足できるくらいを提供してみる。 誘ってくれる存在がいるとよい。 地域Coの提案にチャレンジすると楽しみづくりのきっかけに。 家族との関係は良好。家族の協力あれば、関心シート“温泉”は難しいが“足湯”に行ってみる。 日帰りできる足湯旅行を家族と一緒に。 歩行器の導入も検討→活動範囲が広がる。	脊柱管狭窄症についてはまずは整形受診しDrへ相談、進行度を確認。長男の整体院の活用。 →ここから適した運動メニューの立案。 ソロ活も大切(充実)にしてみるのもよいのでは。 シニアカーを使用し、一人での楽しみ方を工夫(例:図書館、コーヒーを楽しむ)
こだわりが強い性格。一人暮らしなので、自身の活動量が多いし、生活は充実しているのでは。 薬は苦手。東洋医学に触れるのもよい。参考になるかも。東洋医学を利用して痛みの軽減を図る。	ひとりでできる活動の充実。 興味関心シートで「してみたい、興味がある」にチェックが多くある。 興味あるもの(書道や絵)に視点をおとして紹介できるとよいかも。
ご自身大切にしてほしい。自分を労う日を設けてもよいのでは？アロマで五感を癒すなど。 今が「ちょうど良い活動」なのでは。	夫婦ふたりで活動できる計画を提案。 ふたりで出かけられるような働きかけができるとうい。
膝の痛みとの付き合い方。薬でコントロールするのではなく。 外出は無理をせず、定期的に家族が様子見できると◎	整形を受診してもらうことが第一。 Drへ薬の調整、見直しをお願いしてみる。 痛みがコントロール出来れば、行動範囲が広がるのではないか。
本人のやりたいことを掴み切れず…もう少しわかれば地域のイベント・活動とのマッチングできる。 地域のスポーツ大会に誘ってみる。簡単に負担のない競技などへの参加(本人のプライドを傷つけてはいけないが) 本人の思いを傷つけないように傾聴し、本人と関わりながら話し合っ、できること、やりたいことを見つけていきたい。	家族協力的。家族と一緒に取り組めること、協力得て積極的に。 自分の興味あることは積極的に！ 気持ち次第。やる気があれば出来ると思う。 整形の医療管理できれば、病気ありながらも活動できるのでは。
「できていること」を認識できるよう、自信持てるような支援・提案。 カウンセリングを受ける。 記録をつけるのが好きなので、無理のないマニュアルを作ってみる。 「うまくいったこと」「がんばったこと」を日記に残すなど→肯定感を高める◎	妻の活動は？妻と一緒に運動に取り組んでも。 運動のために自宅にスペースを作るなど、環境整理し、自宅に取り組めること始める。できることから。
本人のこだわりもあり薬がどんどん増えている→Drだけでなく薬局に相談するのもあり。 満足感が出にくい性格であるが、ネガティブを認める事も大事であり、～べきを捨てることも必要なのでは。	

・座ってできる体操（ラジオ体操）をみんなの前でする場の提供。 ・定年前に退職した理由が何かのヒントになる？	・図書館に本を借りに行く。 ・「図書館に出かける」という案はとても良いと思う。気分転換になるのでは。 ・長年少年野球に携わっていたとのことで、もしかしたら、息子様たちも少年野球をやっていたかもしれない。現在、そのチームがあるかどうか、近くで練習などしているかどうかわからないが、もし行ける距離でやっているようなら、息子様たちの協力も得て、練習を観に行く等でできれば、意欲向上につながるのでは。
買い物を楽しみの一つである方も多し中、移動販売車を利用すると有効的だと感じている。 アルクのとくし丸は1軒ずつ対応して下さり、駐車場に車を置かせてもらえれば、足の悪い方のために玄関まで聞きに来て、商品を持ってきて下さる。団地は坂も多く、高齢者が出かけにくい場所だが、火曜の14時半から16時半までグルグル回って下さっている。他の地区もこまめに対応しているみたい。	
・訪問してお話を聞くボランティアやマッサージ系の訪問があると、リラックスやリラクゼーションが得られると思う。 ・薬の数や量が多いので、薬剤師さんが訪問する機会があればいいと思う。	
	電動車イスで行ける球場があれば試合を見に行くチャンスができるといいなと思う（少年野球、部活の方に協力を得るチャンスがあるとよいかも）
本人が続けている自宅サロンを参加者側が楽しみにされているようであれば、参加者側の気持ちをご本人に伝わるといいかもしれないと思った（本人のモチベーションになるのでは）	奥様と仲が良さそうとのことだったので「奥様のために」というのが意欲や動ききっかけにならないだろうか（例：奥様に頼まれた買い物をしてくる、など）
サービスC終了後のフォローアップと地域のサロン等につなぐ。	
老人クラブ活動が活発な地区と聞いたので、本人と一緒にできることを一緒に搜してもらう。	電動カーで市内を散策する。
患者が薬の数が増えるのに不安がある。不安な理由など医師に伝えられていない情報を薬局から情報提供し、減薬や不必要な薬の追加について提案する。	疼痛状況が良くないので、受診できていない整形外科の受診勧告。前処方だと飲み合わせがあまり良くないので、痛み止め（セレコシブ）の処方変更提案。
健康管理・相談などが病院以外で受けられるとよいと思った。 「定期的な血圧管理や体重管理出来るアプリや他のツール」	
・屋外活動の活発なデイサービスの提案	・自宅内の環境整備（手すり）の提案やそれをきっかけにした自宅で行える体操や運動の提案 ・リハ職同行訪問を勧める
・自己肯定が高まるよう「今日できたこと」「良かったこと」など一言メモを書いてみる。 ・何か活動を始めるときに不安があるようなら家族や友人と一緒にする。今の活動でも十分だと思うが…。	・腰痛が強いので、横になったままのストレッチか体操のアドバイスをもらう（リハ職同行訪問） ・野球関係の人との交流を再開できるような働きかけを行う。試合を見に行けたらいい。
本人が不安を訴えられる人を明確にする（近所の人やサロンの人など）。もし、いなかったり相談できない場合は、体調管理を含めた専門職の訪問（訪問看護）の利用を促す。	サービスCのように決められた内容を指導のもと実施することはできても、自身で考えながら実施するのは難しいと思われるため、一緒にスケジュールを決めるなど生活スタイルを明確にすることで行動目標を持ってもらう。
フェスタや文化祭など、地域行事への参加のお誘い。	運動の前提条件（受診）を整えることが大事。

サービスC終了後の卒業生が通える場作り(学生さんに協力してもらい交流を図る)	
自宅サロンにお手伝いに来てくれるボランティアの育成(学生とか)	サロン開催。百歳体操を行う。
サービスC終了後に行くことが出来る「場」づくり。(サービスC卒業生が通える場をつくる) サービスC12回→卒業生が行ける場に通う→継続or必要になったら介護保険サービス	
安価で利用できる受診の付き添い、送迎。	
病状の経過から、受診を勧める為に対象者や家族への働きかけがより円滑になる方法があれば良いと思った。今回の事例の場合、ケアマネだけでなく、サービスC介入中に多職種で評価・検討し、提案がしやすい体制作りができると働きかけがしやすいのかと感じた。	

1事例目	2事例目
・介護サービスにこだわらず、カラオケや編み物など趣味活動に参加する。 ・カラオケできるデイサービスなどに参加する。	成年後見人など将来的に必要なと思われるので、本人の兄弟などに相談しておく。
痛み、ふるえ緩和が課題と感じた。主治医への情報提供方法として、薬局にはトレーシングレポート(報告書)がある。薬を受け取っている薬局へ相談してみてもどうか。	専門医への相談。後日でもいいので、専門医からのコメントをいただけるととても良いと思う。
・以前の趣味活動の友人の方々とスマートホンを活用して交流の機会を持ていただく。 ・ボランティアの方による外出支援や同行援助を増やしてもらいたい。	
高齢者の方が増えているが、山間部の方だと車がない生活では不自由となるため、送迎や買い物支援サービス(運転や荷物の運搬)が増えてくると良い。	
訪問マッサージの導入。手当て、直接身体に触れてほぐしてもらうことは、痛みや辛さの軽減以上にメンタルケアが期待できると思うので。	
地域とのかかわりは好まれないので、資源としては難しいが、孫の協力で外出や本人の興味のある活動ができればと思う。 例えば、TikTokやYouTubeでお花の生け方の動画をあげるとか、一緒にカラオケに行く、など。	地域での趣味講座(1年に数回)
孫の介助ができる範囲で、家の中での活動をする。(移動が段差のあるところが多いようであるが、リハビリを兼ねてすると本人のモチベーションにもなるのではないかなと思う)	本人の好きなことや興味あること(興味関心チェックシートでは、絵手紙や絵を描く、編み物など)ですぐにできそうなところからやってみると、できることが増えて本人も楽しさを感じるにつながるのではないかなと思う。
おしゃべりをしたりできる友だちがいるのか、可能であれば友だちと会う機会を孫に協力してもらって作ることができるといいのではないかなと思った。	
近隣の介入を好まないと言われつつも、興味関心チェックシートの「友達とおしゃべり・遊ぶ」に“してみたい”と意欲があるので、外に出向くことに関心を持っていけたらと思った。歌、ゲーム等趣味が合う方々とは打ち解けることができるように感じた。	関わり方について、専門医のアドバイスの下、ボランティア団体等インフォーマルな関わりの中で話を聞いてくれる人が心の支えの一つになって、不安の軽減に繋がれば…と思った。その関わりの中で“楽しみ”を見つけることができたらいいなと思う。
同じ地域に住む者として、顔をつなぎ、時々声をかけたいと考える。少人数の顔を知った方々が時々会うと心がほっとしていただけるのでは？	
減量(←可能な範囲で有酸素運動の提供も)できれば、より歩行時の膝痛軽減につながると思った。	集団での作業は、他者に喜んでももらえたり使ってもらえたりするようなもの等を製作できると、よりモチベーションにつながるかも？と思った。
本人は近隣の介入を好まない方というより、手助けを受ける立場になりたくない、対等でありたい、弱い自分は見せたくない、という気持ちが強いのかな、と感じた。(興味関心チェックシートの“友達とおしゃべり遊ぶ”で“してみたい”と選択しているが、本人の言動にギャップがあるため)	

元々、近隣との付き合いがないのであれば、そのままでもよいのではないかと思います。ADLの低下については、退院後であるため、訪問のリハを導入して状態の確認や回復に向けて検討してはどうだろうか。	本人の話に寄り添い傾聴しているケアマネは、関わり方としてよいのではないかと思います。本人が他者に話を聞いてもらうことで自分に言い聞かせているようでもあるので、本人の頑張りに対して前向きな声掛けができるようにしていければよいのではないかと思います。
・今回のように支援者が対応についての助言を求める場所が、暮らしの会議だけでなく、身近にあるといいかとも思った。 ・専門職(リハ職)の方の経験を聞く機会は貴重だし、医師のご意見も参考になった。 ・「古い」の心と体の変化を知れる「ハンドブック」みたいなものがあると若い支援者は想像しやすいかも。	
お話ボランティアの訪問提案	自分で出来る事も多く、色々な事とのバランスで現在の生活が成り立っているようであり、今の訪問や見守りを続ける事で大きな変化や動きに対応できたら良いと思った。
スマホで撮った写真や動画での交流ができればよいと思う。TikTokをしているようなので、さらに使いこなしてみても。事前に同じ趣味の方を紹介して交流してみても？ 使い方や交流の仲介をしてみる。	入所された近所のなじみの方に手紙を書く時に自分で撮った近隣の自然の写真(絵)にコメントを添えて差し上げるのはどうだろうか。誰かの為に写真(絵)を贈る事を楽しい、嬉しいと感じる事ができたらいい。お世話になる兄弟さん宛でもいいと思う。
リンパマッサージも「体に触れてもらう」安心感が得られるかもしれないので、導入する意味はあると思う。	・良好な近所とのお付き合いがあるので、地域の行事のお手伝いに誘ってもらおう。 ・お母さんとの暮らしぶり、思い出をコーディネーターに聞いてもらう。 ・「辛抱」も奪わないので良いのでは？
・他者交流が出来る場所 ・軽度で働ける場所	
住民の習い事のニーズと、その人が持つ資格で指導することのマッチングをする支援	
リハ職同行訪問、サービスCの利用	精神科デイケアの利用
・近隣の介入を好まない人であっても、民生委員や福祉員、地域福祉コーディネーター等、実態把握する役割のある人はいるので、必要に応じて情報共有できればいいと思った。 ・とても多才な人なので、自宅でミニサロンを開催する。 ・以前は健康体操の指導をしていたので、指導動画を撮って、これまで指導してきたところで放映して、メンバーに見てもらうなどする。人の役に立っているということを実感してもらうことで、生きがいの持てる生活が送れる。	・サロンへの参加を促す。 ・インスタントカメラで撮った写真を出展する。

1事例目	2事例目
・サービスC、リハビリお試し→無料で使えるサービスで場を知る機会に。 ・リハ職同行H.V→自己流のリハを専門職からアドバイスもらう、現状のアセスメントに。 ・免許返納前に、返した後の生活をイメージトレーニング(移動販売の利用、公共交通)	旅行達成。次は会の中心になり自分で企画や提案をすることもよいのでは。 ご近所との付き合いに不安はなくなっているの。 家族の支援はある。自分で役割をもつために、タブレットやYouTubeで検索して計画を立てる。
意識高く、実践できているし、すぐサービスが要る人ではない。 社会資源を使いながら少しずつアプローチしてみる。 免許返納後のシミュレーションが大事→不安軽減につながるのでは。	訪問リハのセラピストも卒後のイメージを描いているはず。卒後イメージを共有して支援につなげてほしい。
訪看2回/週、調理への関心を導いてもらうと趣味につながるのでは。 能力的にはまだ可能性があるの、ヘルパーさんに調理を教えてもらったり一緒に買い物へ行ったり、興味があるものに取り組んでみる。	右麻痺があるが自力で生活できている。 介保サービス外でNsの仕事(自費の訪問看護)している方があるので関わりを持ってみては？ (4,000円/h、月1回でもOK。車での移送もしてくれる) 話し相手、買い物支援、体のチェック、主治医への連絡。同職同士、通じるものがあるかも。
車を使うこと(所有)のコスト(維持費)、公共交通機関を使うこと(地域資源)のコストを比較する(明らかにすると安心につながるのでは。	ご近所付き合いに抵抗も。Aさん中心に通いの場立上げも。 地域の中で何かを担う人になれば。
自家用車以外の方法の検討 車を使わない生活を体験してみる。	右手を活かした生活。やれること広がれば自信になるかも。 右手を使う事を積極的に行き自信をつけてもらう。
免許を返した生活のイメージは少しずつ。(今はできているため、すぐにたくさんは不要) 今ある事を無くすのは不安が大きいの、少しずつチャレンジして変えてみる。	近くの通いの場(工夫いっぱい、オリジナルカードを使ったラジオ体操)は、できて1ヶ月。担い手さん2人はおそらく同世代。うちひとりとは就労中の為サロン化を断念したところ。この場の担い手になってもらえたら嬉しい。 (※CM→本人に意向確認。本人がOKならCoへつなぐ。)
・近隣のサロン、自治会館で体操をしているので、このような活動を増やす。	○訪問リハ卒業、うまくいった好事例 ・2回/w→1回/w→1回/2w 徐々に頻度おとす。⇔数値で維持できていること確認(くり返し) ・卒業時のイメージを開始時にしっかり描く。共有する。→イメージに達したら自分から卒業を口にされる。 (Aさんの場合: 次の段階は、何か役割を担う。地域の資源使う。←ステップアップ) ・リハ+地域の資源。徐々にアイテム増やす。→自信つけて、納得、卒業できる。
	どこかで区切りをつけるのも必要と思うので、地域の中で何かを担う人になればと思う。 百歳体操、ラジオ体操、地域活動はしているので、3ヶ月に1回訪問し、定期的な関わりを持って継続していく。
車の運転について、返納したいが環境的に買い物、通院、難しいとの考えあり。中には、人生の終わりと考えられる方もいる。免許返納した後の暮らしや金銭面等、簡単に情報が得られると良いと感じる。実際に返納された方の話を聞く機会があると不安感も軽減されるのではと考える。	
・介護保険外での訪看としての仕事の内容はすごく参考になった。 ・乗合タクシーが安く利用できると良い。	
車を使わない生活を日々の生活の中で練習していく。 (例: スーパーに歩いて行く、など)	食器洗いで右手を使っていく練習を続けていくと、リハビリの継続や自信につながるのではないかな。

・免許返納後に困ってしまうこと、不安なことを解消していくために項目を整理していく。その後一つひとつシミュレーションして車が無くても生きがいを持って暮らしていけるように自信をつけてもらうことがいいと思う。 ・加えて、今の病状で運転が今後可能かを主治医と相談するのもいいと思う。 ・興味関心チェックシートの中で「歌を歌う、カラオケ」「音楽を聴く、楽器演奏」に興味があると回答している。免許返納後、買い物に行く楽しみがなくなってしまうように、興味がある趣味にアプローチして生きていくことのモチベーションが下がらないように支援していくこともいいと思う。	・本人のADL、IADLが向上してきている様子であるため、訪問リハ職と連携をしながら趣味の旅行に行くことができるように支援していくと良いと思う。
とくし丸に相談する。 分からないから不安なのだろうから、車がなくなった時のシミュレーションをして、こういう生活になるだろう、と分かっしまえば不安は解消すると思う。	通所サービスに切り替える。デイケアなど。
免許返納に関しての不安ではあるが、運転をやめた後に下肢筋力の低下で現在の状態が維持できなくなる可能性があると思うので、今のうちからサービスCなどを行って筋力が低下しないよう提案するのが良いのではないかと考える。	(皆さんの意見やアイディア出しを聞いて) 地域のサロンへの参加や散歩で地域の方と顔見知りになって、地域に自然にとけこめるようになって、地域の行事などにも参加できるようになることが生きがいになれば、と思う。
運転免許を返納した後の生活について具体的に何が不安なのかを本人に確認して、その不安について1つ1つ解決策を提案する。	困ったことや問題点を自分で見つけて解決できているため、訪問リハビリ卒業後は、問題がまた見つかったとしても気軽に相談出来る場所があればいいなと思う。
本人の受け入れが可能なら同行訪問や通所Cを利用して運動や生活の調整をすることも一つの方法。本人はリハビリで運動指導を受けることについては必要性を感じていない様子だが、「運転免許返納後の生活に対する不安」「一人暮らしを続けていくためにすべきこと」といった本人のニーズに着目して、運転免許返納後の生活の基盤づくりを目的とした支援もできる。(実際に通所Cを利用された方で免許返納後も自分の欲しいものは自分で買いに行くため、週に1回は車ではなく歩いて買い物に行くということに取り組まれた方がいる) 運転卒業は難しい課題だが、ご年齢や症状を考慮すると運転技術や反応速度が低下している可能性は大きい。事故を起こす前に本人が安心して運転を卒業できるよう本人が感じている不安を細分化して、金銭面であれば実際に数字を出してみたり、タイムスケジュールであれば実際に時刻表等を見ながら時間を計算してみたりすることも不安の軽減につながるのでは。最終的には本人や家族が決断することなので、家族が運転免許返納を強く望まれるのであれば、家族からのアプローチも含めて連携が必要と考える。	本人の思いが「機能」にフォーカスしているとしリハビリに依存してしまうことが多いように感じる。機能がゴールに達しているのであれば、支援やリハビリを「活動」に振り切るのも一つの方法。本人から目標が出てこなくなっているのは、お世話をされる側からする側になるタイミングがきているということでは。通いの場の担い手になるという案も出ていたが、准看護師として仕事に打ち込んできた経験を活かせる場になる(必要とされる場になる)という点でも自己効力感の向上につながるのではないかと考える。 社会資源: ゆくゆくはボランティアのグループなどがあると元気高齢者や若年障害者の活躍の場が広がるのでは。過疎地では移動手段がなければ活動範囲が制限されてしまうため、街中に出る乗合タクシーがあると移動手段を失った方の活動や参加を支援できるのでは。
	・自分のできそうなことを改めて知る意味でも、サービスCを利用してみるのもいいのでは。 ・資格を活かして、サロンの立上げもいいと思うが、ちょっとした異変に気付いて相談につなげてくれる役割の「団地の保健室」ができれば素敵。 ・自宅で百歳体操やサロン、カフェなどを開く。
近所でカラオケ(サークル、仲間も含め)ができるところがあればいいと思う。 近隣の散歩を改めてしてみるのもいい。 ・車のない生活のイメージトレーニング。	・近隣の通いの場への参加、運営。 ・訪問リハセラピストとの話し合い。 ・旅行仲間との交流拡大。

1事例目	2事例目
夫の協力依頼。見守り目的で、散歩や買い物等を一緒にする。家族に協力をあおぐ	居住環境、国道・産業道路・県道に出るのも“坂道”難所。 <u>リハ職同行H.V</u> で状況アセスメントできれば。
「畑仕事」してみたい→簡単なプランターの活用で家庭菜園。 (担当CMより:市民センターに花壇ある。本人の活動に役立てられたら)	嶽山荘使えるといいが。 介護認定あればデイケア。
料理、食材の活用(家庭菜園)、調理して近所の人と食事会。	ふらつきの原因が不明なのは不安。いきなり外出はハードル高い。 屋内でできること見出す。ただし、血糖・血圧の安定が前提→主治医に要確認。
地区北側(山側)にも百歳体操増やせたら。	友人との交流を充実できれば。 家庭菜園など家でできることに取り組む。
立ち作業の時、腰痛軽減のため足をそろえてやる。 腰に負担の少ない環境づくり(物干し下げる) 座ってできることは座って。「休憩」の大切さを伝える。	ふらつきの原因、気になる。セカンドオピニオンもよいのでは。 筋力低下なら家でできるメニュー増やすのもよい?ただ、リスクになってもいけないので、ふらつきの原因究明が先。 筋力低下→握力測定が目安なので、測定し現状把握も必要。
活動増えると体重減る→血圧の薬の効きが強くなるのでふらつき注意。	歩行補助具、ブレーキつきの検討もできる?
サロンもある。勧めてみては?	怖さあるが、現状できていることをしっかり誉める。気持ちに余裕を。 →プロテクターが安心材料になるなら活用を。 楽しみを持つ。
	低血糖がふらつきに影響してない?気になる。自主測定も。 BMIから薬の調整を主治医と検討。
	独居の方は「話し相手がいない」と、薬を渡す時に言う方がいる。カフェに相談できる場所を紹介してみる。ポスターがあれば掲示したいと思う。
サロンの場所を増やしていく。	
国道2号線以北に「通いの場」、または移動支援。 カフェの回数は増やせないか。	近くの集会所で百歳体操はできないだろうか。 送迎を理由にサービスCの利用ができないのは勿体ない。タクシーで行けないだろうか(自家用車の維持費よりもタクシー代の方が安いはず) 坂道は多いが、バス停までの距離は近いはず。転倒の不安さえなくなればバス利用できる。国道2号線の路線は廃止されているが、県道はバスの本数も多い。

・リハ職同行訪問のような機能 ・看護師同行訪問もあってもいい気がする。 ・包括の保健師、看護師では繋げられない訪問看護の知識や経験が、今、とても有効な気がする。 ・気軽に相談できる居場所があるといいなと思う。	
夫婦でラジオ体操(テレビ体操)を毎日行っではどうかと思う。	
活動量を増やしたり趣味をするためにも、本人の治療中の病気が適切にコントロールされているのかを把握できたら良いと思う。 良かれと思って活動量を増やして病状を悪化させてしまう可能性もあるので、Drの治療方針や本人の服薬状況、病識を確認できたらよりアプローチしやすいと考える。	
寄せ植え教室など、サロンの中でできたら楽しめそう。	・教会への送迎。教会に移動支援、保険利用の提案をしてみてもどうか。教会まで行きたくても行けない人が他にもいるかも。 ・近所と一緒に散歩してくれるボランティアがいるといい。大学生など、社協にボランティア登録してもらえればいいと思う。 ・サービスCの送迎範囲外の地区の方を対象にタクシーの補助などをするのはどうか。
友人から料理教室に誘ってもらう等、通いの場への参加を勧める。	現在のBMI(18.6)が基準値(18.5)ギリギリの為、管理栄養士等からの食事メニュー等についてのアドバイスや指導を受けられないだろうか。
腰痛が緩和することで動ける認識が出てきていると聞いた。動くことは悪いことではなく、腰痛を予防することにつながるという認識をもつことが、活動量を保つ上で大切かと思った。食事面については、骨密度を保つためにビタミンDを摂ることが重要。食事内容を検討することが、結果、腰痛予防につながると理解できれば、家事へのモチベーションも変わるかと感じた。生活一つ一つに意味を持たせることで、活動を変えるきっかけになればと感じた。	転倒を繰り返している恐怖心もあり、活動量低下から自信を失っていると感じた。アイディアにもあったが、同行訪問から、ふらつきやすい動作や時間帯、また場所などの環境を評価する必要性を感じた。評価結果を把握して生活を送ることで、不安の軽減にもつながり、自信を持って動けるきっかけになるかもしれないと感じた。また、現状のしている生活能力は高く、生活を保つこと自体に、自信をもってもらうことも重要かと思った。
	高齢化が進む地区では、このような事例はこれから益々ふえるだろうと感じた。 福祉委員がなくなった地域(集まる音頭とりがいなくなったこと)地形のことを考えると、地域の資源はないように感じる。緊急通報のサスケはつけておられると思うが、本人を孤立させないためにも娘さんの近所への声かけ(本人ができて)も必要かなと思う。

1事例目	2事例目
家族と一緒に通いの場、サロンへの参加。	デイケアで <u>関心あること</u> (興味関心チェックシートに多くのヒントあり)にアプローチしてもらった。
自宅土間を活用して、近隣住民とのサロンを開設してみても？	家族の協力により、家事の役割分担を一度明確にしてみても？ お嫁さんにとって「どこまで本人に任せられる？」範囲と程度の確認を。
ひとりでの外出はやはり心配。 初めは誰かと一緒に、次は待ち合わせして、など、段階的に外出支援を進めたらよい。	まずは家の中での目標、できることを考えてみる。
地域食堂に友人らと参加。食を通じた社会交流。	愛衆館でサロン開催し、体操や公園清掃など活発な活動を。 参加に移動支援が必要かもしれないが(家族に相談してみる)。 家以外に居る場所を作る。
音楽、ゲームも好き。博愛Hpのデイケアの利用。認知症に対応できるOTも居る。	手先使うことに関心ある人。家でできるボランティア活動の提案。
日頃関わっている事例。「認知症」と思っていなかった。 安心して出かけられる工夫が必要。 読書。	望むくらし…少し弱い。 強化しやすい明確な目標にしては。Om歩けるように、Omを〇分(秒)で歩けるように、など、具体的に。
甲状腺の薬の飲み忘れは、数日でも体への影響が大きい。 健康管理の重要性を家族に知ってもらうことは大切。 受診に家族が付き添いできれば。	
困った時の対応策を記したカード(例:家族にTEL)携帯すると安心材料に。	
薬、なぜ飲む？私にとっての効果は？など知れたら、納得、自覚してもらえるのでは？	
・家の中で出来て、外部とつながれるボランティア活動 ・ご家族様への支援(事例①の場合、外出時の失敗を起こりにくくするための外出先の選定など)	
外出先での失敗が数回あったとの事なので、失禁での失敗で無いのであれば、トイレの場所、扉の開閉の仕方を外出先でまずご家族と確認してみるのも良いのではと思った。	家の中でも役割は必要だと思った。お嫁さんが仕事で忙しいとの事だったので、本人の身体機能を評価した上で、役割を話し合ってみることは必要だと思った。
	「料理をしてみたい」と意向あり。家族の同意のもと、通所リハビリで料理の動作訓練を行い評価。それを持って家族に自宅での簡単な料理の実施など提案し実践できるとよいと思った。
意欲向上のためには、感謝される、誰かの役に立つ喜びを感じられることが必要。2事例とも、そんな場面や機会を家族や友人等の協力により設けるとよい。	

・認知症の診断と実際の生活の様子にギャップを感じる。意欲低下の原因に、甲状腺機能低下が影響している可能性があるため、ヘルパーさんや家族による服薬確認と甲状腺ホルモン量の検査受診ができることよい。 ・コープの移動販売を利用されているので、お友達に声掛けをしてもらい一緒に買い物に行く。 ・おでかけえんばわを利用する。	・買い物がしてみたいとあるので、「とくし丸」を自宅に呼び、買う楽しみを増やす。近所の人にも声をかけ、一緒に「とくし丸」を利用することで、地域の買い物難民を減らし、交流機会にもつなげる。 ・お嫁さんへの遠慮で能力はあるがしなないように見える、とあるが、家庭内での役割分担を提案するにあたり、本当に遠慮なのか本人の気持ち(本心)をよく聞いてみる。
・自宅の旧店舗スペースなどを活用してのサロン開催はよいアイデアだと思った。外出がご本人にとって少しまだハードルが高いようだったので、まずは外出ではなく、自宅に誰かが集まっでの交流の機会を設け、ご本人が自宅以外の場の交流も望まれるようであれば外出による交流の機会に参加する、というように段階的に交流できるとご本人にとって負担が少ないかと思った。 ・自宅なり外出先なりの交流にあたって、見守り役・伴走役・交流の支援者として地域の人が数人手助けして下さるとより安心。ご本人と関係性のあるご家族・ご近所さん等。時々、おでかけえんがわのように看護師さんが参加されるとより心強い場になるかと思う。	・ご本人は、さまざまな家事をしたい思いがあるように興味関心チェックシートから感じる。まずは、家庭の中から役割を見出し、実践してもらうことで自信や意欲向上につながる期待がある。 ・ご長男のお嫁さんにも、ご本人に対する遠慮な思いもあるのでは。働いているなら、家事への協力はありがたいことかもしれない。両者間の思いの伝えあいと役割分担のための話し合いができることよいと思う。
・観劇に興味がある、とチェックシートにあったが、十数年前には近くに劇団があり公民館で年に1、2回公演があった。何かそういった楽しい劇を見れるようなイベントが近くであると良い。 ・サロン、デイサービス(楽しいことができる…) ・半日型のデイサービス	
(両事例?) 近隣の人(歩いて行っても負担のない範囲)で集まれるミニサロンを、誰かの家を借りて行うといい(店舗だったところだとなお良い)。	
(両事例?) 隣近所で誘いやすい状況を作って(人と人を繋げる)あげられると良い。	
(両事例?) 患者様やそのご家族が、やりたいことややってみたいことに関して気軽に相談できる所、又は、ネットなどで検索したりできるホームページがあれば、やってみようかなと思った時にその助けになるのではないかな。	
	興味関心チェックシートの“してみたい”にチェックが多い。動機付けが上手くできれば心と体が動くのかも。例えば、夫の仏壇に夫が好きだった料理を供えとか、そのための買物も家族の協力を得て自分で選ぶとか。 「料理を作る」にもチェックあるので、食べたいものや作りたいものがあるのかも。買物は長女と通院する時に行ってみては？長女の家で長女と一緒に料理することもよいかも。
・お嫁さんとの関係性もいいということ、トイレの失敗が何度かあったということなので、負担にならない程度でお嫁さんも交えて外出する。高齢な方なので残された時間の中で今後も楽しい経験を増やしていけたらいいのかなと思った。 ・出かけることはしんどいけど、家に来ることは大丈夫みたいなので、意欲が低下している間はお友達の方から家に来てもらえたら、人と交流する楽しみを持ちながら生活するという目標も達成できるのかなとは思った。	・してみたいことはたくさんあるのでご本人がどこまでしたいのか、ご家族がどこまでならさせてあげようと思っているのか、通所リハビリの職員からどこまでのことができて、どこまでのことができないのかを聞いて、お嫁さんや家族が許せる範囲でできることを増やしていてもいいのかなと思った。 ・買い物はお嫁さんで行けそうとは思ったのですが、仲が良くないのであれば息子さんに連れて行ってもらい、買い物をする場所を長く歩けないのであれば、その間歩くことができるように通所リハビリで体力をつける、休憩ができるようなシルバーカーを使用して買い物をするなどしてもいいのかなとは思った。
・社交ダンスや編み物等、昔行っていた事をまたしてみたい気持ちになれるようにDVDや通いの場を活用出来ないだろうか。	・興味関心チェックシートの結果からご自身なりに行える事は把握している様子なので、担当者会議等の場で家族間の役割分担と活動機会確保の両面に対応していく。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・室内で植物を育てることから始めて、少しずつ庭に出ることができるようにする。・長女との通院の帰りに買い物に行く。 |
|--|---|

1事例目	2事例目
・妻との関係性…仕事していた時は家にいないので交流なかった。仕事をやめてから一緒にいる時間が増えた。	・病院は…娘が連れていく(定期的に)
・本人の性格…明るい方ではない。自分のやりたいことは通す。 ・子どもとの関係性…悪くはない。	・言葉がきついのは性格？…デイケア～言葉がキツイ。支2→支1になったが、本人曰く20代から口が悪い。娘と精神科へ受診した。 ・一人で活動して周りにねぎらってもらえてはどう？
・いつ頃から自宅で…2020年、HpからENT後(脳梗塞の後) ・奥さま、車の運転は…歩いて行ける所は同伴。他はタクシー。	・他の目は気にする？…気にはしているが…娘とCMと3人で話してはいる。デイケアは個室対応もしていたり。
・母のところへはどのように…毎週末、自分で車で行っていた。入院する前に、毎週自宅に。母は施設入所。免許返納は退院後。 ・レンタル歩行器は…ENT後、ゴミ捨て場300mの移動 ・外に出かけていくこと、大切に関わっていた。アイデア、提供したい。	・娘との関係性は？…娘はバイトしている。娘も口調が荒いときがある。
・今まですすめたことは…以前通っていたこと。読書会等。通所リハ。コロナ理由にやめた。	・本人の興味は…人と話すことが好き。
・お子さんの関わりは…長・次男は年1回くらい。三男は帰ってこない。 ・孫との関わりを持つ。	・興味関心チェックシート…色々な人が集まる場は？通いの場、集いの場は？参加しても暴言が…
・脳梗塞後遺症からくる意欲低下？妻と一緒にであれば意欲出るなら、一緒に取り組める(一緒に挑戦できる)活動を見つける。	・近隣の通いの場、CM曰く「紹介しようか迷っている」。対人の難しさ心配。これに対する理解者を見つける事が大。性格を変えるのは難しい。この性格を個性と捉えられる方との関わり。
・通所サービスの導入。サービスCの活用を検討してみても。(訪問系は利用中。外出の機会を作る)	・地域福祉Co、民生委員のH.Vを提案
・一人で外出したいのかも？ 300mの歩行は可能なので、友人と待ち合わせして近辺の散策。俳句の会と一緒にいく。地域の人の声掛け。	・料理は自身が作っていることから、本人の性格・気質をその場の人に予め説明した上で、OKであれば、民間の料理教室などに参加。逆に家に来てもらえるボランティア。 ・民間のお茶、お花教室等。
・外の活動に興味がある(興味関心チェックシートより)。ひとりで動きたい？一人で行ける支援。一人で行動できる場所があれば、その実行。	・ヘルスメイト主催の料理教室への参加。BMI低下傾向がある為、体づくり、健康管理の意識につながれば。食事で体調を整えることも必要。
・散歩した先に花壇、畑、公園等、目的があれば。散歩の会等、サークル活動的なことを作る事が可能であれば、参加を促す。	・1対1のコミュニケーションならOK？ 訪問やTELで話を聞きてあげるボランティアがいれば。友人の力借りる。 ・Coの訪問。1対1の対応であれば暴言なく会話もスムーズになるのでは。
・付き添いの妻、付き添いの待ち時間に本屋で本を選ぶ。孫との関わりに興味があるので、孫への読み聞かせ用の本と一緒に選ぶ。実際に読み聞かせ。	・認知症への理解深める。認知症サポーター養成講座。

・歩いて行けそうな市民センターで俳句クラブ(月2回)定員に空きがある。参加しては？	・本人と同じレベルの性格、認知機能、身体機能の方との関わり、グループ編成。 ・本当にデイケアに行っていて楽しんでいるのか？個室対応で？周りが望んでいるだけでは？狭い箱に閉じ込めようとせず、その人らしく過ごさせてあげる。合う人と過ごす。相性の合う話し相手を見つける。
・ボランティア活動に興味を持たれているので、資料づくり等、提供し意欲向上につなげる。	・お茶、お華など、人でなくモノに集中できる活動のすすめ。 ・大きな声を出す活動、してみたいというカラオケで発散。気分が緩和されるのでは。
・奥さまの性格を知りたかった。 ・本人の本当の望みに着目すること！	・自分が初心者となる活動(スポーツ)に参加すれば、集中して取り組める。興味があって新しい事にチャレンジ。
	・その人の事を決めつけず、芯を見てあげてほしい。そんな縛りの生活よりも、その人らしさを見てほしい。
教職を経て退職後も指導的な立場で生活されていた方なので、できなくなってしまったことの喪失感、ダメージは相当なものと思う。ご本人の希望は現実的でないのかもしれないが、少しでも叶えられるよう信じ支えていくことはご本人の励みにつながると思う。	娘とスポーツクラブに行く回数を増やしてみては？
意欲低下が生じている原因を考慮した上で関わり方を検討しても良いのではないと思った。	認知、身体的機能がご本人と同等レベルで少人数での集まりであれば加わりやすいのかと思った。可能であれば、最初の数回は付き添いを付け、様子を見る必要があるのかなと思った。
	・同年代の人にこだわらず、元気な人との交流の場(もう少し若い世代の人との交流の場)があれば参加してみては。 ・料理が好きなようなので、近くに子ども食堂等、他世代の人と交流でき、好きなこともできる場所があれば参加してみては。
畑仕事をして体を動かし、体と心をリフレッシュする。	
どちらの方もそれぞれの性格があることを周りが理解する事は大切だと思う。それを逆手にとって「ありがとう」ばかりを伝えてみる。試しにやってみる感じで反応をみてもいいかも。怒っているのは他者へかもしれないが、“自分への不完全”に怒りを感じて八つ当たりすることがある、と聞いている。支援者は根氣がいるが、いろんな人がいるので、試しにやってみるのはいいかも。	
・zoomで参加できる活動を探す。 ・有償ボランティア等の事務手伝い。	・娘さんの精神面、健康面(食事・排泄など気になる。飲酒あるのでは？)の安定を図るためのアプローチ。 ・多少、娘さんの不安定さが影響する部分もあるのではないかと考える。娘さんと一緒に地域活動へ参加できれば感情もセーブできるのではないか。
事例の方に合う活動の場所が必要と感じた。 地域の社会資源に繋げるためには、受け入れが出来る多くの場所があり、選択できる場所がたくさん必要ではないと感じた。	
家の中で行えるボランティア活動の提案(俳句教室の資料作りの手伝い等)をしていく事で無理なく外出に繋がるように支援を行っていく。	リハ職同行訪問や福祉委員の方の自宅訪問により本人と関わる人物を増やし、本人や家族の気持ちや考えを伺う手段を確保していく。
子どもや小学生と交流できる場所	

・教員をしていたことの知識やつながりを活用する。 ・市民センター活動にお誘いする。 ・新聞への投稿(俳句)をすすめる。 ・散髪屋さんでおしゃべり。	・認知症カフェ、家族会に参加して介護している方のご苦勞を聞いていただく→誰かの話の聞き役になっていただけないか？ ・市民センターの活動(麻雀、料理)にお誘い。教えてあげる立場で。
学習塾の講師	
奥さんと二人でいる時間が生活のほとんどとなっているため、本人・妻の各々の時間を取れば、コミュニケーション・生活に変化が出るのではないかと感じた。 俳句・手紙を出し合っている友人と会う。 ・自宅に友人招く(お茶をする、俳句を行う、パソコンの文書作成を行う) ・自宅の近くに友人に来てもらい、近隣の公民館や、カフェで友人と過ごす。 ・自宅の近くに友人に来てもらい、近道を散策する。 ルーティンで行っていることに対して、「妻以外の友人と一緒にいる」というルーティンを、月に数回行ってもらうのはどうだろうか。	
奥様との関係性が良好であることが望まれることから、ご夫婦で参加できる教室や催しがあれば関係性を作りやすいと思った。	性格上、既存の教室等に入りにくい方々もいらっしゃると思うので、そういう方に向けてのプレ教室のようなものがあれば一度チャレンジしてみて、今後も継続可能かどうかの判断ができるのではないかと考えた。

1事例目	2事例目
長女を含め、生活と共にお母さんの生活を考えていくことで長女の考えも良い方向へいくのではないかな。	ご主人が大きい存在ではあるが、高齢であり、身体機能低下を考慮し、リハ職と同行訪問し、ついでに「お母さんもやってみたら」という提案をしてみる。
友だちを含め、パッチワークを教えたりする機会を作る。	日記をつけてもらい、やる気につなげるようにしてみる。
歩行器の受け入れも良いのでは？中長時間的な外出をアプローチしてみる。	サービスCに参加してみる。自宅でも出来る内容をご主人と共に続けてやってみてはどうか。
情報提供をしっかりと伝えることで、良い方向へいくのではないかな。	家庭菜園を2人で挑戦し、食べる喜びを味わう。
入浴方法については、送迎付きの場所を利用してみるのも良いのではないかな	ご近所で声をかけてもらい、サロンへ参加してみる。外出する機会が作れば良い。
外出したいとの希望がある、友人もいるので、集まって一緒に行動できる場の提供、計画を立ててみる。	ご主人に合わせている感じも見られる為、離れての活動を考えてみてはどうだろうか。
薬に関して、自己管理できていることは今後も継続してもらい、難しい状況になれば薬局へ相談してほしい。	年間を通じ、地区の行事もあると思うので、参加することが今後の出掛けるきっかけになればいいと思う。
受診の際、処方箋を出しても待ち時間が長いようであれば、後で取りに行くことも検討	一緒に出来ることを考え、実行してみる。出来ることを日記に記載していくことで、やる気につながるのでは。
近隣に公民館がある。地区の会長が中心になって活動されているので、連絡してもらえれば対応できる。	何もしなければ、すぐに運動低下になる。重度化防止の為、動機づけで予防につなげていくことが大事。本人に向き合えばやる気につながるので、続けていくことが定着するようにアプローチする。
自宅で出来ることがあれば、一緒に考えることもできるので参加してもらえたらと思う。	
医療機関での集いの場に参加する。	・毎日の散歩や花壇づくりで運動は十分できていると思う。 ・夫に、公民館活動や地域の活動などで、参加者としてでなく提供者として(元教員としての知識など活かし)参加できる場があれば、そこに一緒に出掛けるなどできるといいし、夫婦ともに意欲的に生活できるのではないかと感じた。
・公民館までの送迎(送迎バスやタクシー) ・サロンや百歳体操などに誘ってくれるご近所の方がいるといいと思う。	
近所の方と有る交流を深めて、プラス何かすることを一緒に考えてみては…？	

地域の顔なじみの人たちと同じ輪で過ごしたい人もいれば、自分のことを知っている人のいない場所での活動を好む方も多くいらっしゃる。地域を超えて、その人が自由に選択でき、個々に合った場所で活動できる環境が整うと良いかと思う。そのための送迎サービス等も充実すると良い。	
公民館のパッチワーク教室に行ってみる(娘さんに連れて行ってもらう) 歩行器を使用して買い物に行ってみる。 友人が家に来た時に、興味のある針仕事や将棋・囲碁・麻雀・ゲームと一緒にしてみる。	畑仕事を夫と一緒にしてみる。 興味関心チェックリストの中で、“地域活動(町内会・老人クラブ)に興味がある”にチェックがあったので、自宅から夫と一緒に通える場所でやっている地域活動に参加してみる。
買い物・通院は自分で行って、娘と公民館などでのパッチワーク教室に行く。 お城のジグソーパズルをする。	宗教活動に参加する。 終活。
	日記をもとにして「自分史」を作ってみては？思い出を振り返れる人とおしゃべりしながら。
・地域内の通いやすい場所や行事を勧める。 ・本人や家族が気軽に相談や話を出来る場所や機会の提案。	
産業道路の用水路が曲がり角の行き来に支障をきたしている。用水路を柵で囲っている為。蓋方式にして、高齢者が安心して散歩できる、住みよいまちづくりの一助となるとありがたい。	地域資源として、高齢者が利用できるコミュニティバスなどがあれば、買い物や通いの場への送迎問題の解決の一助になり得るのではと思う。どこの地域も運転免許返納後の移動の問題はついて回る。移動スーパーの誘致などで、近所の人が集えお話をするコミュニティの場になればと思う。そこにベンチがあるだけでコミュニティの場になり得るのではと思っている。